



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

# 佐土原ロータリークラブ週報

## 【囊中之錐】(のうちゅうのきり)

目立っている才能の持ち主を言う



Lend a Hand

手を貸そう

2003.2004年度 国際ロータリーのテーマ

第819回 平成15年12月24日(水)

### 〔本日のプログラム〕

- |             |         |
|-------------|---------|
| 1. 食        | 事       |
| 2. 点        | 鐘       |
| 3. ロータリーソング |         |
|             | 「奉仕の理想」 |
| 4. 四つのテスト唱和 |         |
| 5. 会長の時間    |         |
| 6. 幹事報告     |         |
| 7. 委員会報告    |         |
| 8. 点        | 鐘       |

次回予告  
★12月31日(水)  
特別休会

★1月7日(水)  
新年家族懇親会

### 佐土原ロータリークラブ

例会日	毎週水曜日(12:30~13:30)	会長	中武 幹雄
例会場	石崎浜荘 ☎0985-73-1913	副会長	林 厚雄
事務局	宮崎県佐土原町大字下那珂3887-17	幹事	堀田與之助
	☎880-0212	会計	岩切 正司
	TEL及びFAX 0985-73-7170	会報委員	池田 仁志

## 第818回例会記録

(2003. 12. 17)

### ☆会長の時間

会長 中武幹雄君

皆さん今日は。今日は第818回の例会です。本日はゲストをお迎えしております。

先週紹介しました、高鍋RCがお世話する、米山奨学生の李 偉君と、高鍋RCの国際奉仕委員長の新藤満司君です。拍手でお迎えしましょう。あとで李 君には卓話をして頂きますが、李君について、新堂君に詳しく紹介していただきたいと思ひます。

来週(24日)はプログラムでは年末懇親会となっておりますが、クリスマスイブと言うことでもありますので、通常の例会に致します。

さて、先週は「黄金律」についてお話致しましたが、今日は炉辺談話から、「変えてはならないもの」についてお話してみたいと思ひます。

ここ何年か前から「ロータリーは変わらないてはならない」という声が出始め、その声はだんだんと大きくなって、遂には、「改革だ」「改革だ」という声が高まったようです。ロータリーを改革するために、新しい提案をしようと言う、ラビッツア元会長の声に応えて、2001年規定審議会には1200件にもほぼる立方案が提案されて、大混乱に陥ったことは真新しい事です。この「改革」の声の震源地を探ると、どうやらRI本部の方から様で、その本位は、職業奉仕団体からボランティア団体に変えようという意図の様でした。普通「改革」は現況に不満を抱いた末端の方から出てくるのが普通ですが、最近の「改革の掛け声」はそうではない様です。「ロータリーは変わらないてはならない」とポール・ハリスは言っていると、ラビッツア元会長が述べ、その後、多くの人がある言葉を引用するようになりました。しかし、人の言葉を引用するのは、実は大変危険な事です。伝言ゲ

ームと同じ様に、語り継がれて行く内に、本来の趣旨とは全く違うものになる危険性があります。ポール・ハリスの著書「This Rotarian Age」の中と、1930年(昭和5年)の国際大会のスピーチの中で、「進歩」「改革」「革命」という言葉を述べています。しかし、その文章では前者は時代の流れの中で、ロータリーの物語は何回も書き換えられるであろうと言う記述があり、後者はロータリーの奉仕活動の実践分野や組織管理について、革命的な改革が必要であると言っているのであって奉仕理念の改革については一言も言及していません。「改革」を述べる人の殆どは、ポール・ハリスのオリジナルの文章を読まないで、単なる人の受け売りで述べており、語り継がれて行く途中で意味が変わって、何でもかんでも「改革」するという、危険な結果に繋がる可能性があります。ロータリーの実態を分析すると、「理念」「奉仕活動の実践」「組織管理」の三つに分ける事が出来ます。そこで、時代のニーズに従って奉仕活動の実践分野を変えて行かなければ、誰からも感謝されないばかりか、地域社会、国際社会のニーズに従った奉仕活動をすると言うロータリーの趣旨に外れてしまいます。また、組織管理の方法は、常に能率や経済効果を考えながら、改善を加えて行かなければ、たちまち制度疲労を起こしてしまいます。しかしながら、理念はそうはいきません。理念とは即ち哲学であり、哲学とは万古不変のものでなければなりません。そこで、絶対に変えてはならないものは理念です。ふらふらと理念が変わるような組織には存在価値はありませんし、その将来には限りがあります。ロータリーの理念にはロータリー100年の歴史の重みがあるのであって、奉仕活動の実践や組織管理の方法はどんどん変えるべきであったとしても、理念は絶対に変えては成らないという事です。

以上、ロータリーの炉辺談話から、ご紹介致しました。

一口メモ

自動車事故防災上のアドバイスをいくつか挙げてみます。

- ★運転の前に自分で出来る範囲内の車両点検をする。
- ★自分の性格を熟知し、運転中に頭にきたり、イライラしたり、人格が変わった様に凶暴な運転行為を自己規制する。
- ★常に歩行者優先の優しさを持ち、他人への危険余地能力を高める努力をする。
- ★走行中、安全確認、安全操作を省略しないで、運転の基本を守る。
- ★車間距離は十分に取り、スピード違反、無理な追い越し、一時停車違反などをしない。
- ★飲酒運転は絶対しない。
- ★長距離単独運転の場合は、疲労で事故を起こさない様、定期的に休みを取る。
- ★運転者、同乗者の全員がシートベルトを締める習慣をつける。等々。

まだ色々な事がありますが、今日は一般的な事を紹介致しました。以上のような事は、日頃皆さんはしっかりされておられるかと思いますが、自分のためでもありますので、今一度ご確認を！  
以上で会長の時間を終わります。ありがとうございました。

☆幹事報告

幹事 梶田 與之助 君

1. 例会変更通知

①12月25日(木)の例会は年末家族会のため、時間 19:00~

場所 グランドハイランド に変更

16年1月8日(木)は特別休会

16年1月15日(木)は4RC 合同新年例会

のため、日時 1月14日(水)

18:00~

場所 杉神社 に変更

小林中央RC

野菜の話

“セロリ”

セロリは、古代ギリシャ、ローマの時代から、整腸や強壯の薬として知られ、香料としても使われて来ました。古代ギリシャ人は祭りの日に部屋にセロリを飾ったとか。これは特有の強い香りが、魔除けになるとされていたからです。

ヨーロッパでは長く薬草として使われて来ましたが、17世紀頃から野菜として食べ始めたという記録が残っています。

日本には、豊臣秀吉の朝鮮出兵の時に加藤清正によって持ち込まれたという説があります。その後、江戸時代になってオランダ船によって再度伝わり、「オランダミツバ」という和名がつけられたと言います。明治になって長野県で栽培が始まりましたが、広く栽培されるようになったのは、食生活の洋風化が進んだ昭和50年代に入ってからです。

中国でもセロリは古くから栽培され、漢方薬として使われて来ました。血を動かす働きを持ち、血圧を下げる、鎮静、鎮痙(けいれんを鎮める)健胃、利尿、浄血などの効果があるとされています。生食の苦手な人は、茎や葉を果物などと混ぜてジュースにして飲むといいでしょう。セロリの種は、乾燥させてセロリシードというスパイスに、また油を絞って、アロマテラピーにも使われます。

☆出席報告

委員長代理 田村 勝二 君

会 員 数	27名
例 会 出 席 者	20名
出 席 率	74%
メークアップ者数	3名
修正出席率	85%
欠 席 者 名	袴詩、観、健、旭

## ☆ゲスト卓話

米山奨学生 李 偉 君

### ☆高鍋RC 新堂満司君のお話☆

高鍋RCで国際奉仕委員長をしております新堂です。今日一緒に参りました、李 偉君の紹介を致します。高鍋RCが米山奨学生を、お世話するのは今年が初めてで、国際奉仕の私が面倒を見ることになりました。

李君は、皆様もご覧の通りの好漢です。彼は現在、宮崎大学で勉強をしていますが、郷里では大学の教授です。これから、卓話をしてもらいますが、若干、日本語が旨くありませんので、どうぞ話の前後から、判断して頂き、ご理解をお願い致します。

今日 ここの例会場に来て、ロータリーの発祥地、シカゴとニューヨークでメークした時の会場を思い出しました。ここの会場と非常に似ておまして、良い所だなーと、食事をしながら、当時を思い出しております。

只今、ご紹介頂きました、李と申します。私の出身は、中国東部の東チベットです。日本の2倍の面積で、人口は500万人います。私の住んでいるチベットの一番高所は日本の

富士山の約2倍の7,000メートル、平均標高3,500メートル、非常に寒いので、野菜類は全然栽培出来ませんので、ビタミンCの摂取は出来ません。チベット民族は生きるために『ヤク』と言う、野性動物とは切り離せない関係にあります。

今日はチベット民族にとって無くてはならないヤクについてお話致します。

ヤクは牛科の野性動物で、毛で家を作り、皮では靴を作ります。腸は詰め物をする時、使い、肉は塩を入れた鍋で煮て食べます。今が一番寒い時で、夜はマイナス30℃になり、まるで、冷凍庫です。

ヤクは11月から、12月に殺し、胃袋の中に肉を詰め込んで、家の外に置いて、保存します。外が冷凍庫の役目をしますので、食べる時に

外から運んで、解凍して食べます。

ヤクはチベットに約1,000万頭おります。チベット民族はヤクの食糧の草を求めて、移動し、生活を営んでおります。移動の際、荷物を運ぶのもヤクの仕事です。

それでは、ヤクの病気についてお話しします。ヤクの病気の中で、一番厄介なのが、寄生虫のハエです。ハエはヤクの肉や、皮に毎年、何十億円もの被害をもたらします。その為チベット民族の生活のレベルは中々向上しません。このハエは寄生すると、皮膚に穴を空かせ、肉質も悪くなります。現在チベットの人口も増えておりますが、ヤクも増えております。この沢山のヤクが草を食べるので、草地が砂漠化し、地球温暖化の原因にもなっていると思っております。でも、ヤクは我々民族にとり、かけがえのない動物なのです。ヤクのハエは6月の始め頃、成虫が飛び回り、ヤクの背中の毛に産卵し、2週間位で孵化し皮膚の中に侵入します。ヤクの体内で8ヵ月ほど寄生して、血管等から体内を移行し、次の年の3月頃、背中から地上に出ます。

幼虫は1期、2期、3期と成長します。1期は胃袋、肝臓、食道に寄生、2期~3期は、産卵の場所の背中に出て来ます。背中から出るので、皮に穴が空き、使い物になりません。

私は、3年前から、宮崎大学の農学部の実験室、獣医、畜産の先生の5名でグループを作り、解剖等を行い、研究しています。

毎年、中国の政府からも費用の一部を頂き、研究を続行しております。

ヤクは野性動物ですので、注射は出来ませんが、3年前、日本から薬を購入して1年に2回ほど、試験的に毛の上に少しだけの使用で効果が得られました。

私の大学や省庁の協力で研究の成果は徐々に出ております。

ロータリーの奨学金はこの様な研究の為に役立っております。皆様に改めて御礼を申し上げます。将来は日本と中国の掛け橋に成るよう、努力したいと思います。

謝々